

人のうごき

令和7年8月届出分を掲載（希望者のみ）

ごっこん

鈴木 椿さん	加藤 涼子さん	栄町
山岸 大晟さん	小澤 菜摘さん	南大通 6
吉村 凌佑さん	中西 史奈さん	北大通 1

おくやみ

堀口 秀雄さん	83歳	港町
實川 利治さん	77歳	北 2 の 1
小林 和雄さん	92歳	南 1 の 6
松田 浩美さん	63歳	北 3 の 1
高山 敏夫さん	83歳	栄町
逢坂 孝一さん	69歳	栄町
高野 美千子さん	77歳	栄町
林 友美さん	49歳	朝日

人口と世帯数（8月末）

人 口	5,827 人	（ - 13 ）
男	2,839 人	（ - 8 ）
女	2,988 人	（ - 5 ）
世帯数	3,314 世帯	（ - 5 ）
（ ）は前月比		

お忘れなく！

**9月30日（火）納期限の税金は
国民健康保険税（第3期分）**



Dr. 佐々尾の健康カルテ

秋にかけて、キャンプや登山、公園の散歩中など、自然と触れ合う機会が増える季節には、ハチ刺され（蜂刺傷）のリスクも高まります。刺されると非常に痛く、場合によっては命に関わることもあります。今回はその基本的な知識から、刺されたときの対応、予防法までを詳しく解説します。

ハチの中でも、人を刺す可能性があるのは主に「スズメバチ」「アシナガバチ」「ミツバチ」の3種です。これらのハチは、自衛や巣を守るために針で攻撃し、毒液を注入します。刺されると、まず激しい痛みとともに、刺された部位が赤く腫れあがります。これはハチの毒による局所的な炎症反応で、多くの場合は数時間から数日でおさまります。しかし、問題は「アレルギー反応」です。過去に刺されたことがある人や、体質的に敏感な人は、再び刺されると強い免疫反応を起こし、「アナフィラキシー」と呼ばれる重篤な症状を引き起こすことがあります。これは、アレルギー（この場合は蜂毒）に対して過剰な免疫反応が起こることで、急速に全身症状をきたす状態です。蕁麻疹や呼吸困難、血圧低下によるショックが起こり、放置すると命に関わることもあり、迅速な対応が必要です。過去にこの症状の経験がある方は「エピペン」というアドレナリンの自己注射を携帯しましょう。道立病院ではこの「エピペン」の処方が可能です。

刺された時の対応は以下の点です。

- ①ハチの近くから離れて安全を確保する
- ②ミツバチの場合は針が残るのでピンセットや毛抜きなどで取り除く（手で取らない）
- ③刺された部位の周りを指で圧迫し毒を搾り出す
- ④患部を水でよく洗い、氷や冷たいタオルで冷やす
- ⑤必要なら市販のかゆみ止めを使う（ステロイド軟膏）

医療機関を必ずしも受診する必要はありません。呼吸困難や動悸がする、蕁麻疹が出るなどの「アナフィラキシー」を疑う場合は救急車を要請してください。特に症状がその時点でない場合でも、過去にハチ刺されでアレルギー症状が出たことがある方は受診する方が良いでしょう。

ハチに刺されないためには、自然の中では黒い服を着ることや香水を避けるようにしましょう。またハチの巣を見つけたら近づかないこと、ハチがいてもゆっくりした動きで刺激しない（手で払う動作は逆効果になる）ようにしましょう。

ハチに刺されても軽傷であることが多いため慌てる必要はありません。ただ、重篤なアレルギー症状が起こる可能性もあり、万一来備えて応急処置の方法を知っておくと良いでしょう。

（北海道立羽幌病院 副院長 佐々尾 航 医師）

